

# 特集1 広がる職業の選択

働くことは経済的な自立につながり、自分の個性や能力を生かすことは、社会の発展につながります。

働く女性、働きたいと思う女性が増える中で、男女雇用機会均等法など法や制度の普及により、これまで男性の職業と思われていた分野に女性の姿がみられるようになりました。

そこで、建設現場に技術職の社員として女性を採用している田中建設株式会社を訪問し、労働環境などについてお話を聞きました。

## 現場で働く

### 苦米地久美子さんにインタビュー

#### 現在の職種を目指したきっかけ

環境保全に関する研究がしたくて、北里大学畜産土木工学科に入学しました。就職活動時は、フィールドに出て大学で学んだ農業土木や環境に関する知識を生かせる仕事を探しました。しかし当時は就職氷河期で、県内外の建設業や公務員を受け



田中建設株式会社環境保全事業部  
苦米地久美子さん



苦米地さんは、工事で使う材料や機械の手配、スケジュールや予算の管理、施工物の品質や労働安全の管理など工事現場の運営と監督をしています。

#### 現場で心掛けていることは？

社内におけるわたしの立場は「技術員」ですので、男性職員と同様に早朝からの現場や残業もこなしていきます。ハードな面もありますが、そ

ましたが、うまくいきませんでした。そんな中、男女問わず技術職員を募集していた田中建設株式会社に就職することができました。現在、会社に勤めて8年目になります。

#### 仕事で取り組んでいること

の分やりがいもあります。作業員のほとんどが、わたしより年上です。仕事中はお互いの立場を明確にして厳しい指示も出しますが、常に敬意を持って接するように心掛けています。また、工事には大勢の人がかかわるので、「コミュニケーションを大切にしています」。

建設業ということと、ここがうるさい、

汚いというイメージがありますが、今は周辺環境に配慮した建設を行うのが主流です。わが社では、新規事業の開拓と緑化技術の向上に取り組むために、わたしを2年間北里大学大学院に派遣してくれました。今後は、大学院での研究成果を生かし、現場で環境に優しい材料を使用していく予定です。

#### 同じ職業を目指すかたへ

この仕事は、作ったものが形として残り、自分の采配で工事が進む面白さがあります。腕力で男性に劣りますが、現場で仕事をしているとき、頭の中には「女性だから」という意識はありませんし、特別困ることもありません。自分が仕事をする中で感じていることは、大学や職場で学んだことは長い時間をかけて生きてくるということです。

ですから、この先も現在の職務を

継続したいと考えています。とはいえ、仕事と家庭の両立となると新たな課題も出てくると思います。そのときは、上司と相談してよい方法を考えたいです。

職場では、性別にかかわらず一人の社員として扱ってくれるので、恵まれた環境で仕事をさせてもらっていると思います。肝心なことは、仕事への心構えだと思っています。

## 田中建設株式会社のかたに

### インタビュー



(左) 常務取締役 藤内 康人さん  
(右) 執行役員財務部長 福山 新悟さん

#### 女性の技術職を採用した理由は？

社員の採用は、あくまで社風に合えば良いと思っています。やる気さえあれば性別にはこだわりません。かえって、女性の細かい目線が男性より優れていると思います。

これまで、女性の技術職は5、6